

二〇一九年九月二七日

猿よけの案山子大手を広げ立つ
教会のミサの予定に七五三

素 秀

二〇一九年九月二六日

新涼の一湾統ぶる鳶の舞

なつき

二〇一九年九月二五日

まなかひに薩摩富士見ゆ大花野
鏡池睡蓮の葉のみづりて

菜 々

大瓶に秋の七草小料理屋

うつき

万物の影地に落とす良夜かな

みづき

大作の瑠璃色絵皿秋灯下

宏 虎

二〇一九年九月二四日

偕老のお揃ひリュック野路の秋

満 天

はたはたの詠めとばかりに高跳びす

明日香

名園の八景めぐり秋惜しむ

うつき

曲水に似し小流れや水の秋

満 天

二〇一九年九月二三日

初物よとて栗ご飯供へけり

うつき

秋風の通ふ三和土や太柱

たか子

二〇一九年九月二二日

大空へ弓を構へし案山子かな
露けしや苔に覆はる摩崖仏
鹿の声遠く聳す深 山道

うつき

宏 虎

素 秀

二〇一九年九月二一日

萩叢のこんなところにマリア像

たか子

近江路や左右に広がる荇田かな

はく子

葛鎧ひモンスターめく立木かな

明日香

白き腹晒して匆ねる濁り鮎

素 秀

案山子にも声掛けて行く里の道

うつき

毎日句会みゆる選・二〇一九年九月二九日